

# 2022年度 山梨学院短期大学 公開講座(第7回)

## 不登校について考える —子どものSOSをどのように支援できるのか—

講師： 山梨学院短期大学 保育科 松井佳子 特任准教授

### 【講座概要】

近年、不登校児童生徒数は急増し、令和2年度は小学生で10年前の3倍の人数が報告され、中学生では約25人に1人が不登校を経験しています。この講座では、そもそも不登校とは何なのか、日本ではこれまでどう見られてきたのか、そして子どもたちのSOSに、私たちはどのようにこたえることができるのかを考えたいと思います。

# 「りんご」で画像検索してみたトップ画面

The screenshot shows a Google search for "りんご" (apple). The search bar at the top contains the text "りんご". Below the search bar, there are 18 image thumbnails arranged in three rows of six. Each thumbnail includes a small image and a caption with a source URL. The thumbnails show various types of apples, including whole red apples, sliced apples, and baskets of apples. The source URLs include kurashiru.com, delishkitchen.tv, ja.wikipedia.org, kewpie.co.jp, delishkitchen.tv, asahi-kasei.co.jp, delishkitchen.tv, kurashiru.com, hyponex.co.jp, ringodaigaku.com, aomori-ringo.or.jp, and aomori-ringo.or.jp. At the bottom of the search results, there is a file icon and the text "shisen\_kowai.png". The Windows taskbar is visible at the very bottom, showing the system tray with the date and time "18:01 2022/09/20".

Google りんご

りんごの種類や旬について知りたい！長持ちす...  
kurashiru.com

りんごの旬はいつごろ？品種や産地に...  
delishkitchen.tv

リンゴ - Wikipedia  
ja.wikipedia.org

りんごとチーズのマヨ和え！とってお...  
kewpie.co.jp

りんごのカロリーはどのくらい？糖質やお...  
delishkitchen.tv

りんご | 果物 | 保存テクニック | 旭...  
asahi-kasei.co.jp

りんごの皮の栄養はどのくらい？皮ごと使...  
delishkitchen.tv

りんごの保存方法 | 長持ちのコツ | 常温・冷蔵...  
kurashiru.com

リンゴ | みなとの野菜大辞典  
hyponex.co.jp

ふじ（無袋） - りんご大学  
ringodaigaku.com

りんごの品種 | 青森りんご公式サイト...  
aomori-ringo.or.jp

りんごで美活 | 青森りんご公...  
aomori-ringo.or.jp

shisen\_kowai.png

22°C  
くもり

18:01  
2022/09/20



# 不登校の 理解と支援のための ハンドブック

伊藤美奈子 [編著]

多様な  
学びの場を  
保障する  
ために



ミネルブナ書房

- 【Ⅰ部】 学校現場における不登校の現状と支援（小学校・中学校・高校）
- 【Ⅱ部】 支援の場からみた不登校（スクールカウンセラー、福祉現場、医療現場、教育支援センター、フリースクール、特例校）
- 【Ⅲ部】 不登校の子をもつ母親の心理とその支援

目次をみると、不登校は様々な立場から取り組まれていることが分かる。

# 「不登校」の一般的イメージ？

## 「不登校」というワードで検索したフリー画像



「ひきこもり」で検索すると、会社に行きたくない人のイラストが加わりました。けれども、それ以外にも...



「雪が降る時期に土の中にひきこもり春を待つ男性（女性）」のイラストも出てきます。



# (1) 不登校の定義



## 不登校の定義とは

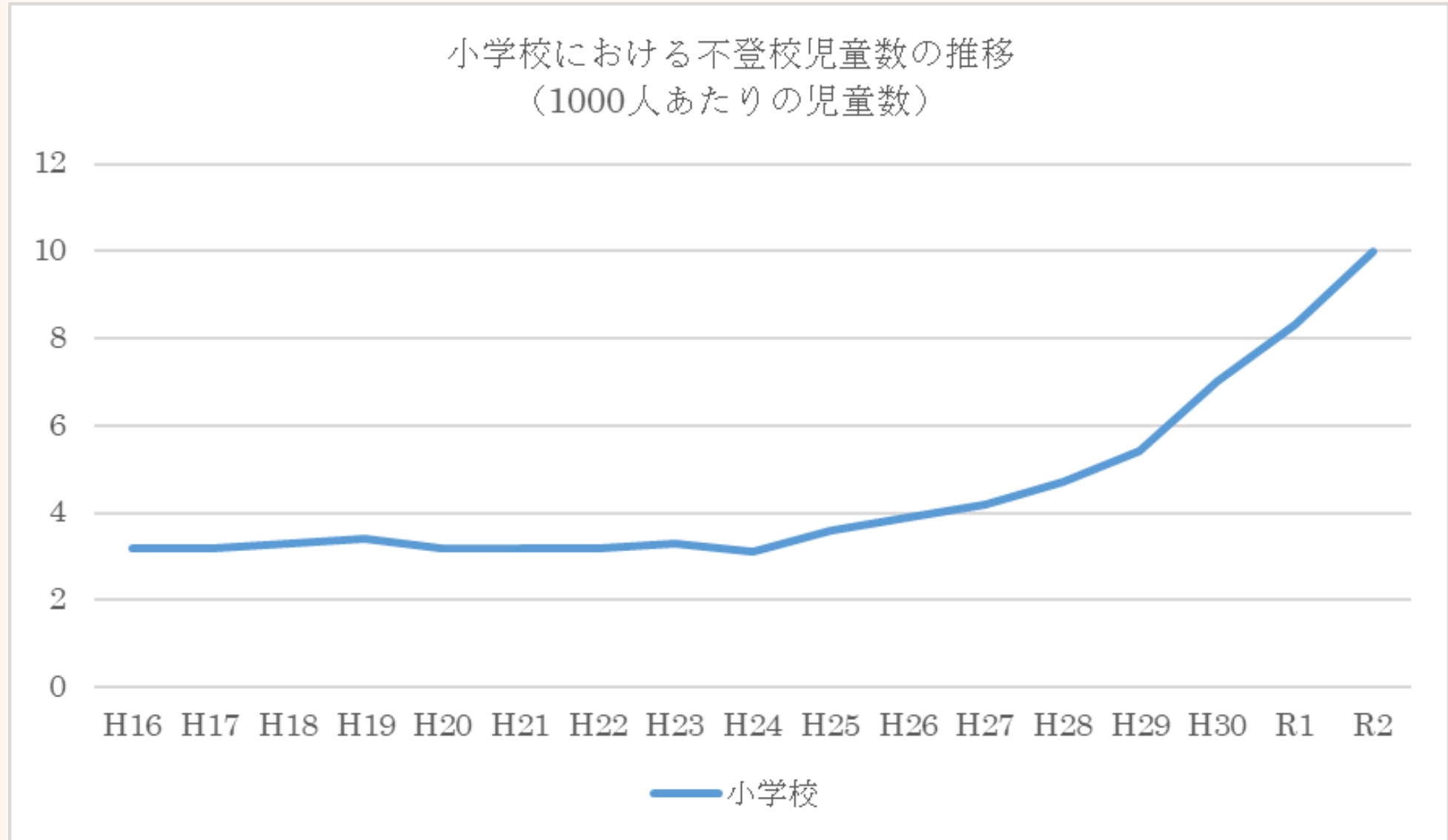
何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあるもの

長期欠席は「不登校」「病気」「経済的理由」「その他」の4項目に分類され、（令和2年度は「新型コロナウイルスの感染回避」の5項目）年度間に30日以上が長期欠席とされる。

以下のケースは「不登校」統計には含まれていない。  
→登校に関連して、辛さや難しさを持っている子どもは統計よりもさらに多い。

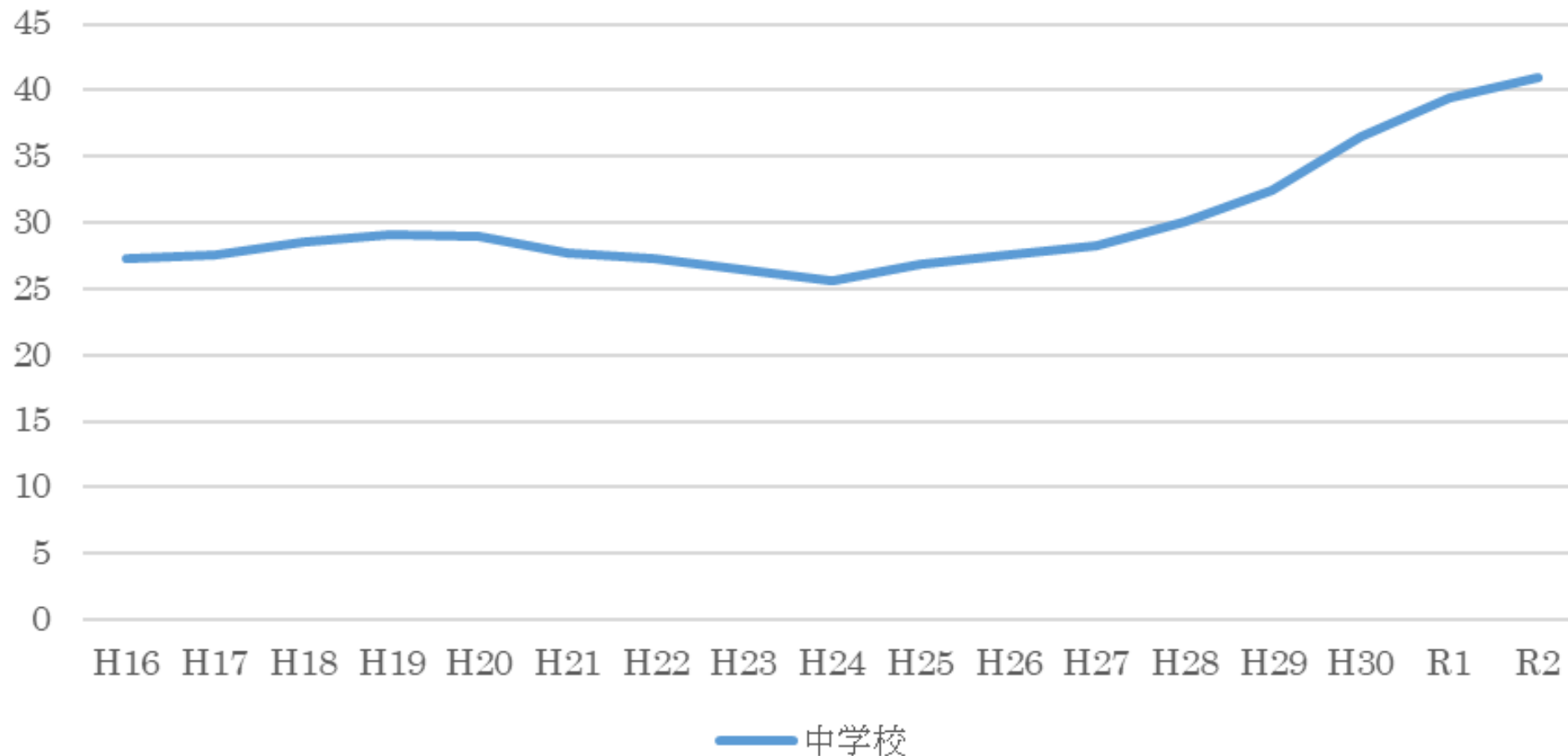
- ▶具合が悪くて毎日のように遅刻や早退をしているが、欠席日数は年間30日以下である。
- ▶どうしても教室に入ることができず、保健室や別室で過ごしている。
- ▶フリースクールや教育支援センター（適応指導教室）に通っていて、学校に出席と同等の扱いになっている。

(2) 小・中・高の不登校児童生徒数



(出典) 文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」を元に作成

中学校における不登校生徒数の推移  
(1000人あたりの生徒数)



(出典) 文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」を元に作成

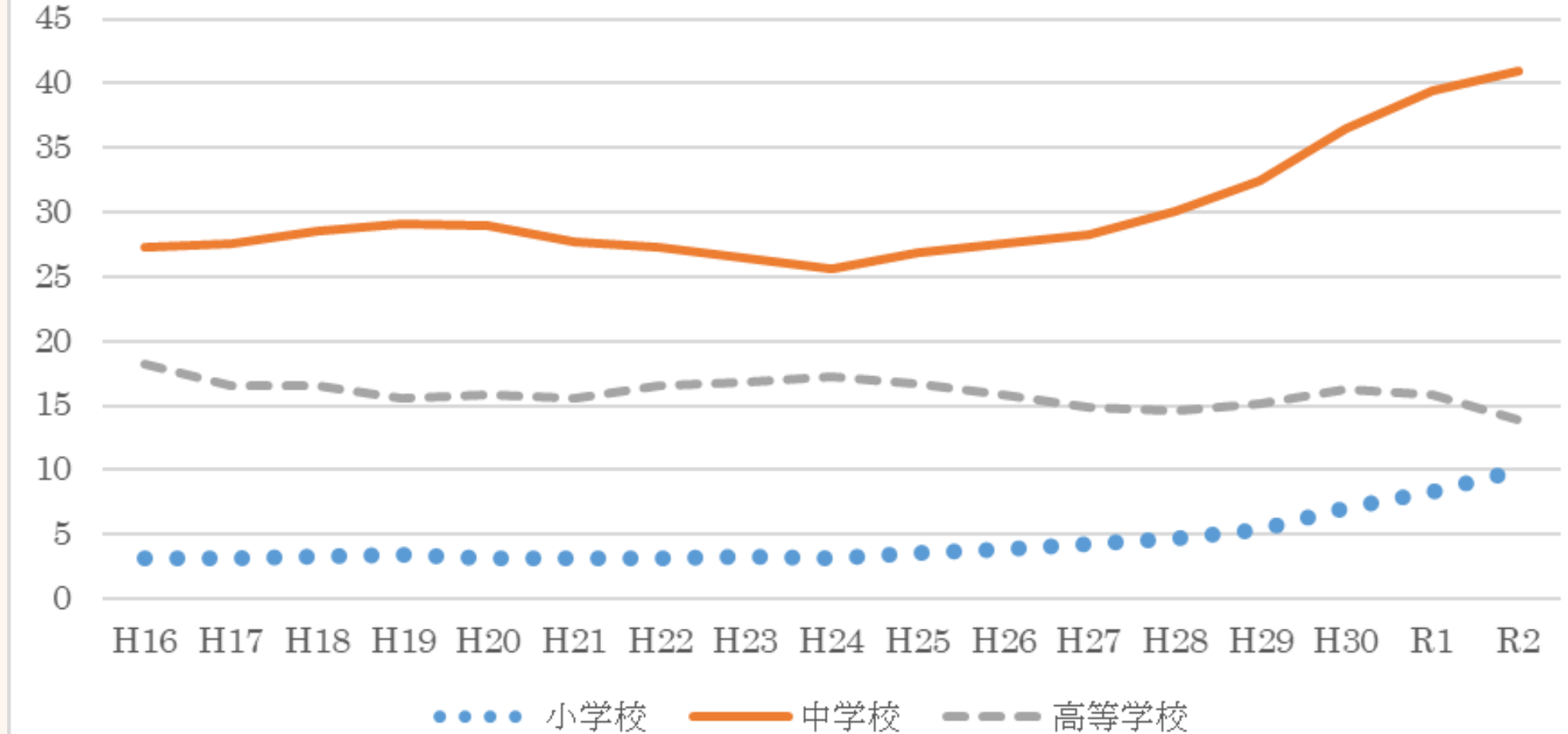
# 不登校児童生徒のうち、**54.9%**が**90日以上**の**長期欠席**

区分	欠席日数30～89日の者		欠席日数90日以上で出席日数11以上の者		欠席日数90日以上で出席日数1～10日の者		欠席日数90日以上で出席日数0日の者		不登校児童生徒数
小学校	35,614	56.2%	22,096	34.9%	3,545	5.6%	2,095	3.3%	63,350
中学校	52,742	39.7%	60,107	45.3%	13,762	10.4%	6,166	4.6%	132,777
合計	88,356	45.1%	82,203	41.9%	17,307	8.8%	8,261	4.2%	196,127

※ パーセンテージは、各区分における不登校児童生徒数に対する割合。

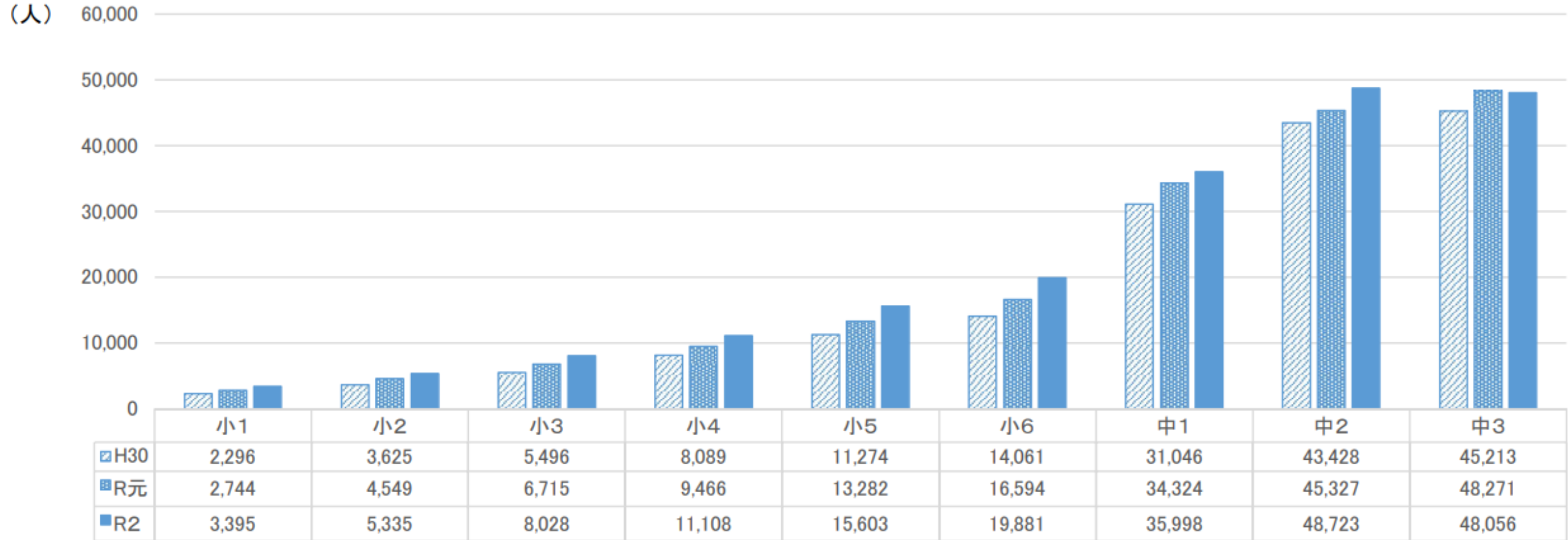
文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」  
([https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext\\_jidou02-100002753\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf)) より引用

不登校児童生徒数の推移  
(1000人当たりの児童生徒数)



(出典) 文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」を元に作成

## 学年別不登校児童生徒数



文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」  
[https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext\\_jidou02-100002753\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf) より引用



# 子どもたちには、どんな権利があるの？

この条約の定める権利には、大きく分けると以下のようなものがあります。



## 生きる権利

住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること



## 育つ権利

勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること



## 守られる権利

紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働などから守られること



## 参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

unicefホームページに記載されている「子どもの権利条約」の説明  
( [https://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_rig.html](https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html) )

(3) 学校に行かないことは、どのようなことだと考えられてきたのか

「不登校」という用語が偏見に満ちていて嫌だと感じる人もいるようですが、実は…

- 「不登校」という用語は、子どもが学校に行かない、あるいは行きたくても行けないという状態を示しているだけ。本来、価値判断を含んでいない。
- 逆に、「学校恐怖症」「怠学」「学校ぎらい」など、不登校の理由を決めつけかねない呼び名から、学校に行っていない状態だけをあらわす「不登校」という用語に統一された経緯がある。
- 問題は「不登校」という分類や用語ではなく、不登校の状況にある子どもたちを、家族、先生など周りの人や、社会がどのように見るのかというまなざし

# 長期欠席について項目を立てて記述のある生徒指導資料

発行年		タイトル	用いられた呼称
1971年	第7集	「中学校におけるカウンセリングの考え方」	登校拒否
1976年	第12集	「精神的な適応に関する諸問題」	登校拒否、不登校、怠学、学校恐怖症
1977年	第13集	「問題行動をもつ生徒の指導」	怠学、学校ざらい
1980年	第15集	「生徒指導上の問題についての対象」	登校拒否、怠学傾向
1981年	第16集	「意欲的な生活態度を育てる生徒指導」	登校拒否、怠学
1983年	第18集	「生徒の健全育成をめぐる諸問題－登校拒否問題を中心に」	「総称として『登校拒否』」 (p.11)
1997年	第22集	「登校拒否問題への取組について」	「『登校拒否』という用語で表現」 (p.5)

(出典) 加藤美帆, 2012, 『不登校のポリティクス 社会統制と国家・学校・家族』勁草書房, 147頁

## 「貧しくて学校に行けない」から「さぼりや、精神疾患で学校に行けない」という見方へ

- 戦後の日本で最初に長期欠席が問題になったの際は、貧困や、労働のために学校に来ることができない子どもの存在という文脈があった。
- その後、日本の経済復興と共に、なぜ義務教育の場所が準備されているのに学校に来ない子どもたちがいるのか？が問題視され、怠学（不良の前兆）、または精神的疾患との関係で考えられた。（神経症的登校拒否や学校恐怖症など）

学校に行かないことは、本人の弱い性格などが原因の問題行動で矯正すべきで、父母の育て方にも問題があるというまなざしへ

- 「学校恐怖症」の精神病理的な印象を避けるため、しだいに「登校拒否」の呼び名が一般的になっていく。
- 登校しないことは問題行動であるとされ、その原因として、本人の性格に問題がある、家庭での育て方や、父母の性格などに問題があるというまなざしが強くなる。
- 1980年代には、「不適応」な子どもを指導、または「矯正」して学校に戻すための施設での死亡事故なども報道された。

## 例えば、登校拒否の原因や背景（1983年当時の文書）では

- ▶ 本人の性格傾向（不安傾向が強い、優柔不断である、適応性に欠ける、柔軟性に乏しい、社会的情緒的に未熟である、神経質な傾向が強い）
- ▶ 家庭の養育態度（過保護である、言いなりである、過干渉である）
- ▶ 父親の性格傾向（父親が社会性に乏しく、無口で内向的であり、男らしさや積極性に欠け、自信欠如であるといった場合には、子どもの成長過程でモデルとなるべき父親像を子どもに示してやることができず、登校拒否の下地となりやすい）
- ▶ 母親の性格傾向（母親が不安傾向を持ち、自信欠如、情緒未成熟、依存的、内気であるといった場合には、一般に子どもに対する態度が過保護なものとなりやすい。このような性格傾向と過保護的養育態度の結合は、登校拒否の重要な背景の1つと考えられる）

文部省(1983)『生徒進路指導18集』（前島康男、馬場久志、山田哲也編（2016）『登校拒否・不登校問題資料集』より再引用）

現在は、不登校は誰にでも起こり得るもので、問題行動ではないとされています（社会がこのよう見方を共有することが、不登校児童生徒の気持ちを楽にしていける）

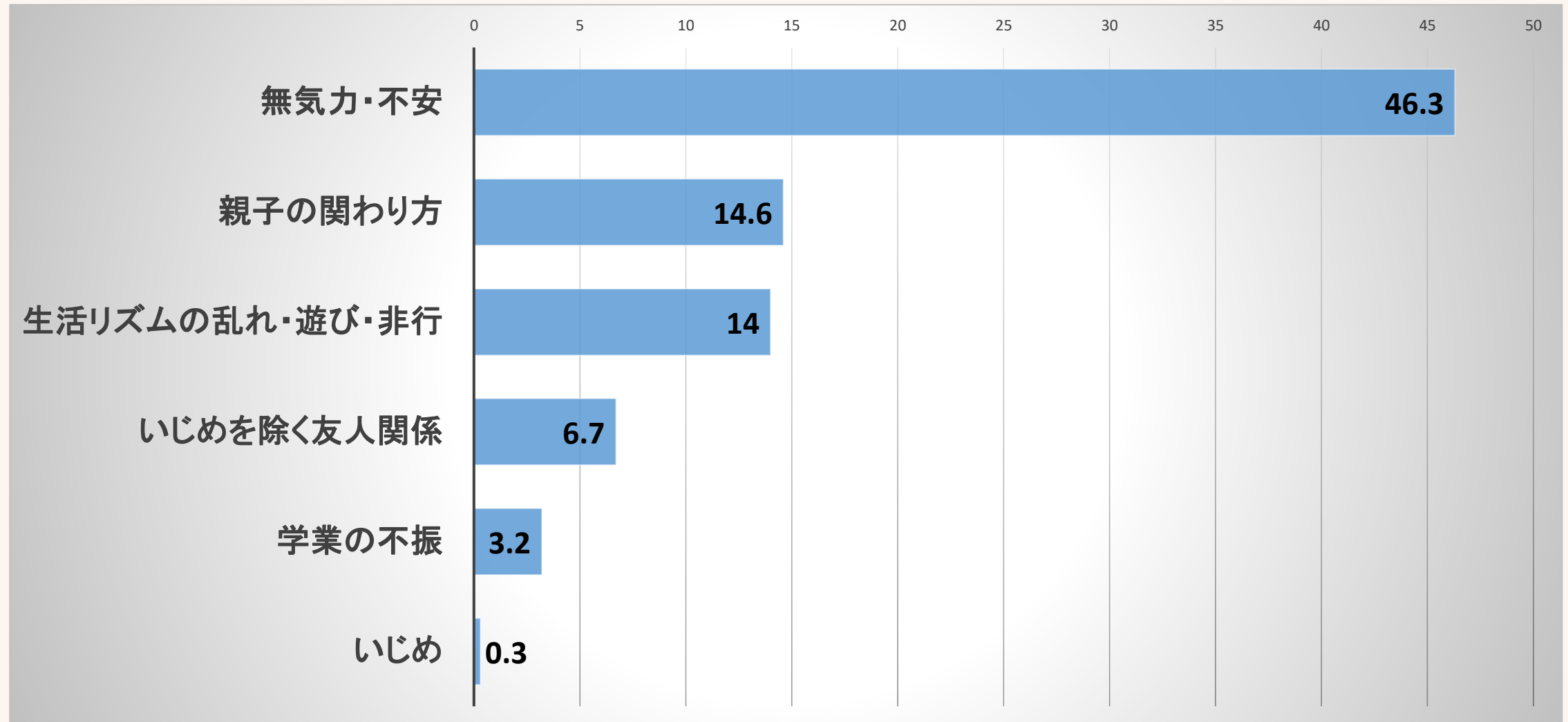
不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校というだけで問題行動であると受け取られないよう配慮し、児童生徒の最善の利益を最優先に支援を行うことが重要である。

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針 平成29年3月（文部科学省）



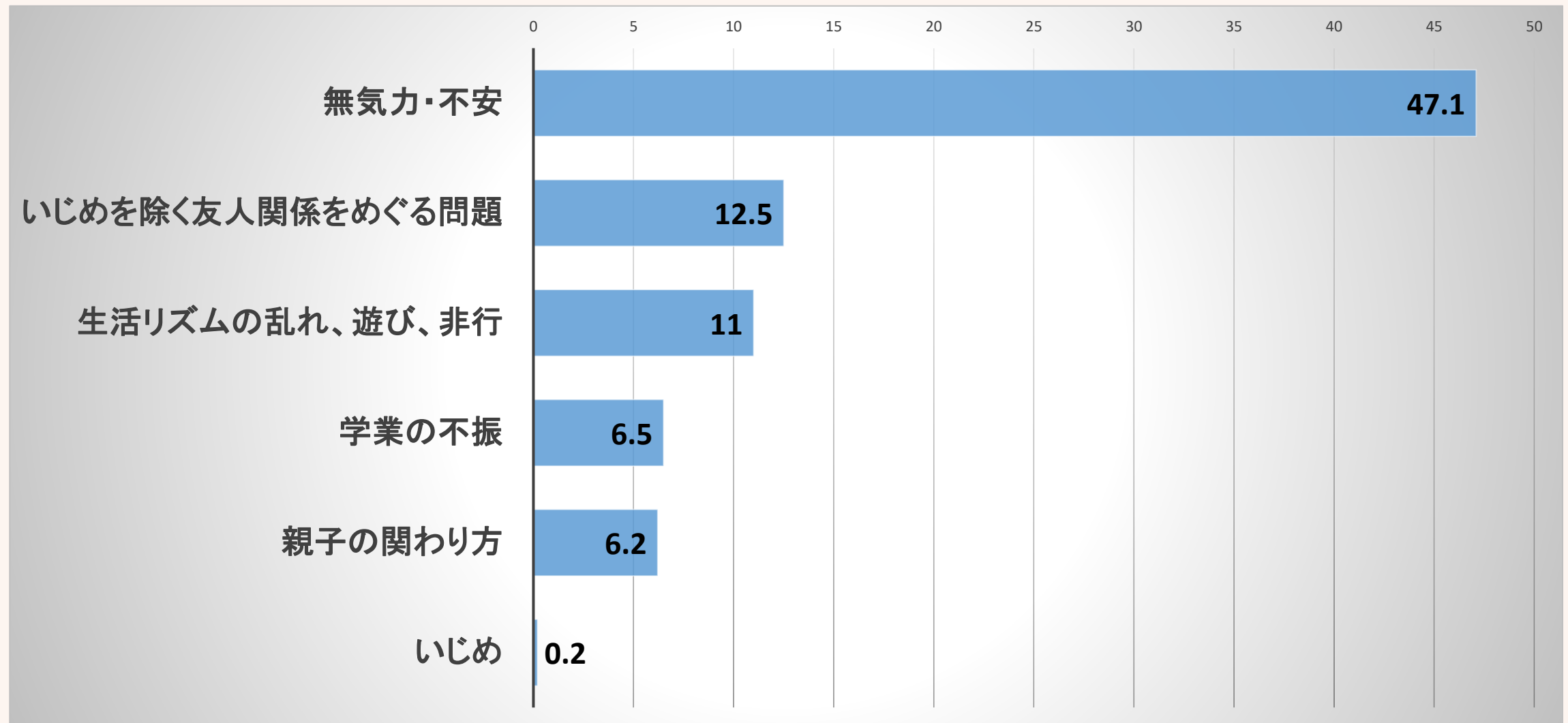
(4) 学校に行かない理由

# 毎年おこなわれている全国調査の中で、各児童生徒の不登校の要因として学校が選択方式で回答したものの抜粋(小学校)



文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」を元に作成

# 毎年おこなわれている全国調査の中で、各児童生徒の不登校の要因として学校が選択方式で回答したものの抜粋(中学校)



文部科学省「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」を元に作成

## I 調査の趣旨

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」第16条において、「国は、義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の実態の把握に努める」とされていることを踏まえ、不登校児童生徒への更なる支援の充実等について検討する上での基礎資料とするもの。

II 調査対象期間 令和2年12月1日～令和2年12月28日（令和3年1月19日まで回収分を集計）

## III 調査対象

調査時点において、調査への協力が可能と回答のあった対象学校に通う小学校6年生又は中学校2年生で、前年度（令和元年度）に不登校であった者のうち、調査対象期間に、学校に登校又は教育支援センターに通所の実績がある者

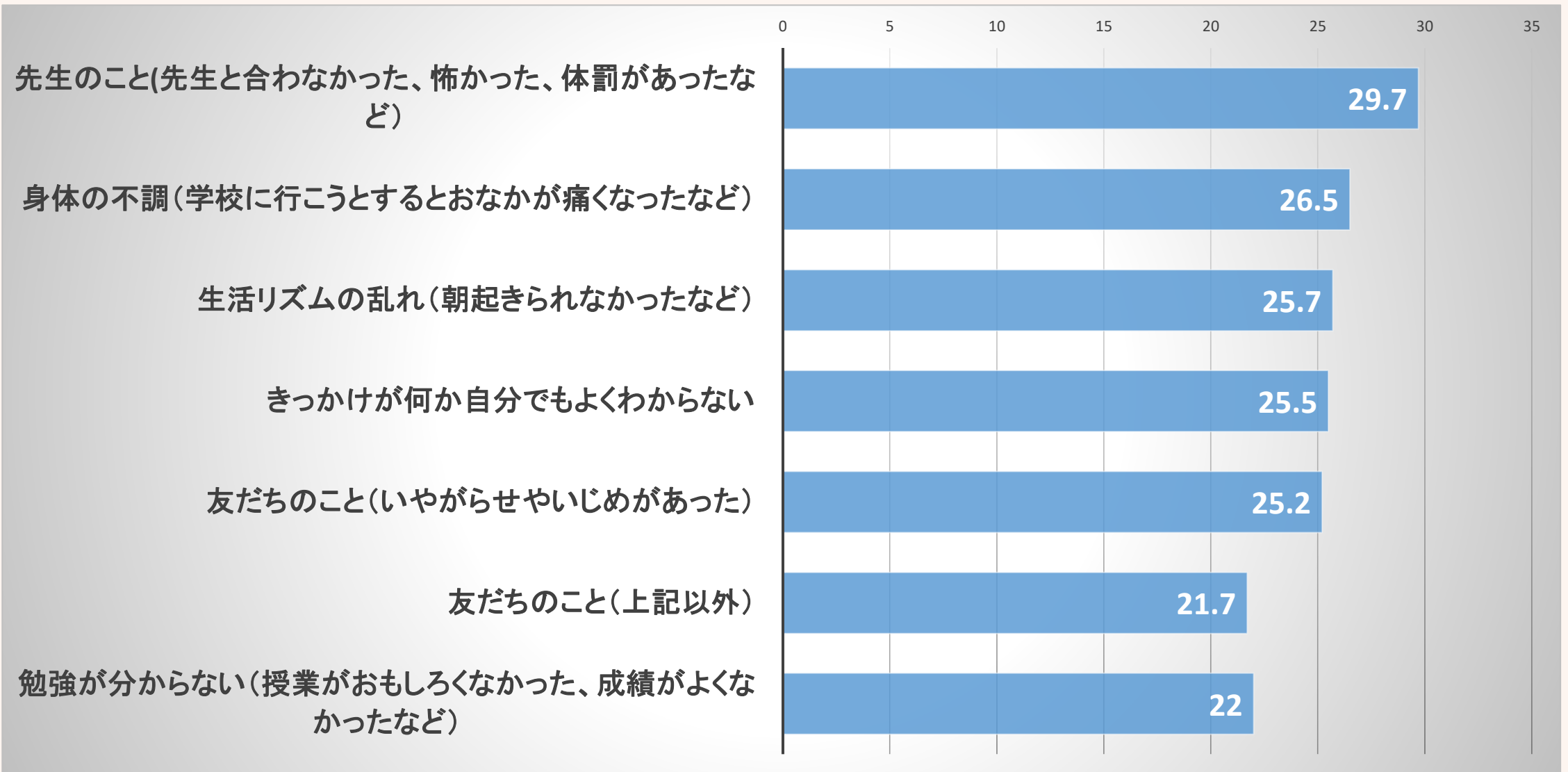
## IV 調査方法

調査対象校から調査対象児童生徒及び保護者への調査票の配付及び調査対象児童生徒及び保護者から調査実施業者への直接送付

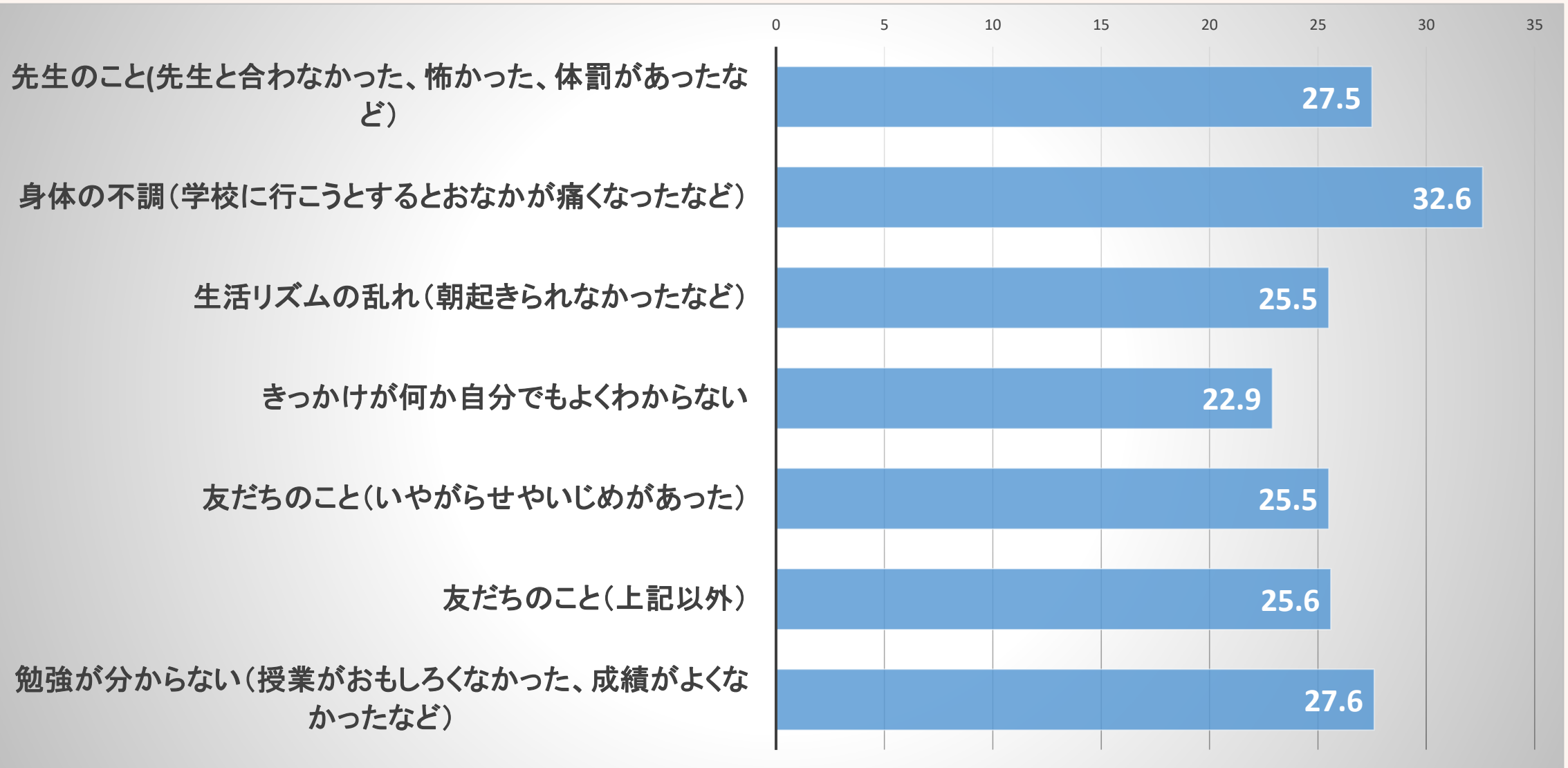
## V 回収状況

	児童生徒	保護者
小学6年生	713件(回収率11.7%)	754件(回収率12.4%)
中学2年生	1,303件(回収率8.2%)	1,374件(回収率8.6%)

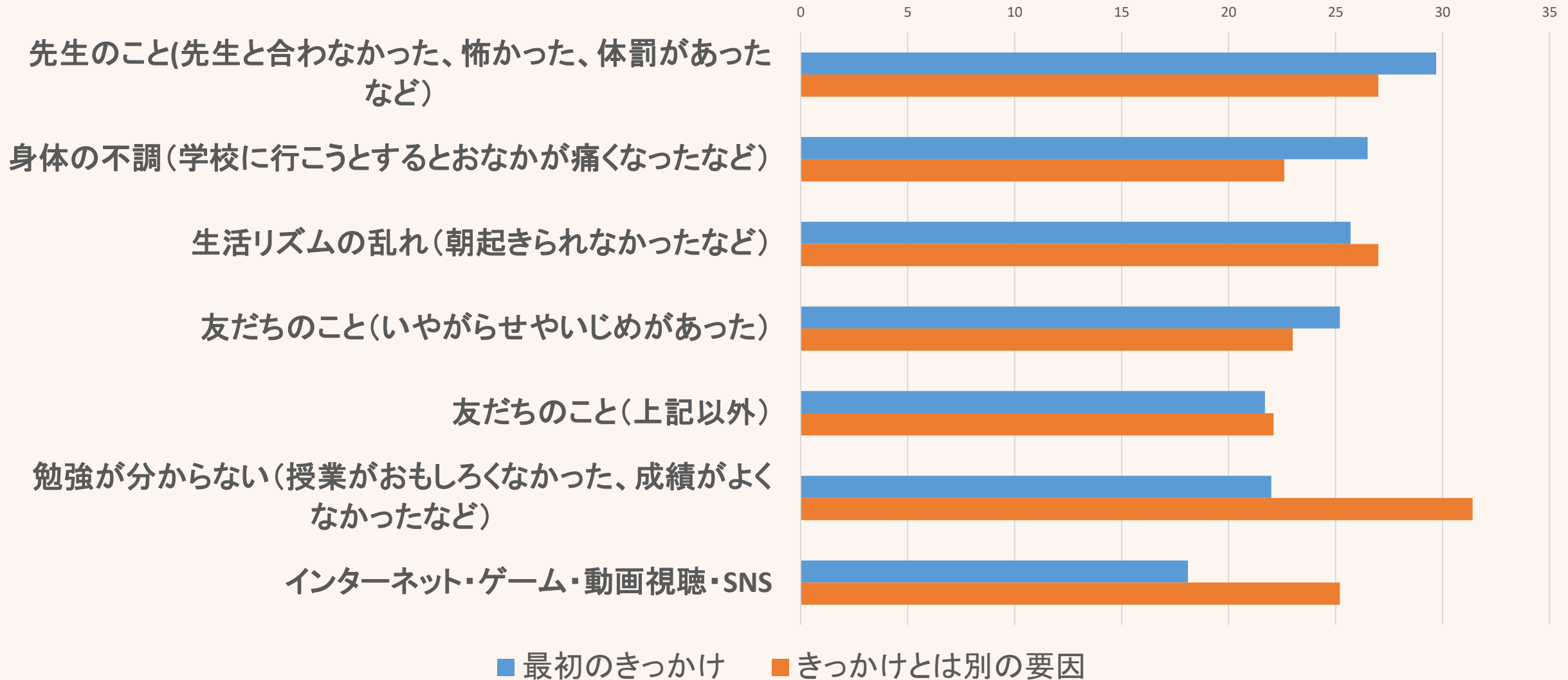
# 本人が回答した「最初に行きづらいつ感じはじめたきっかけ」(小学校)



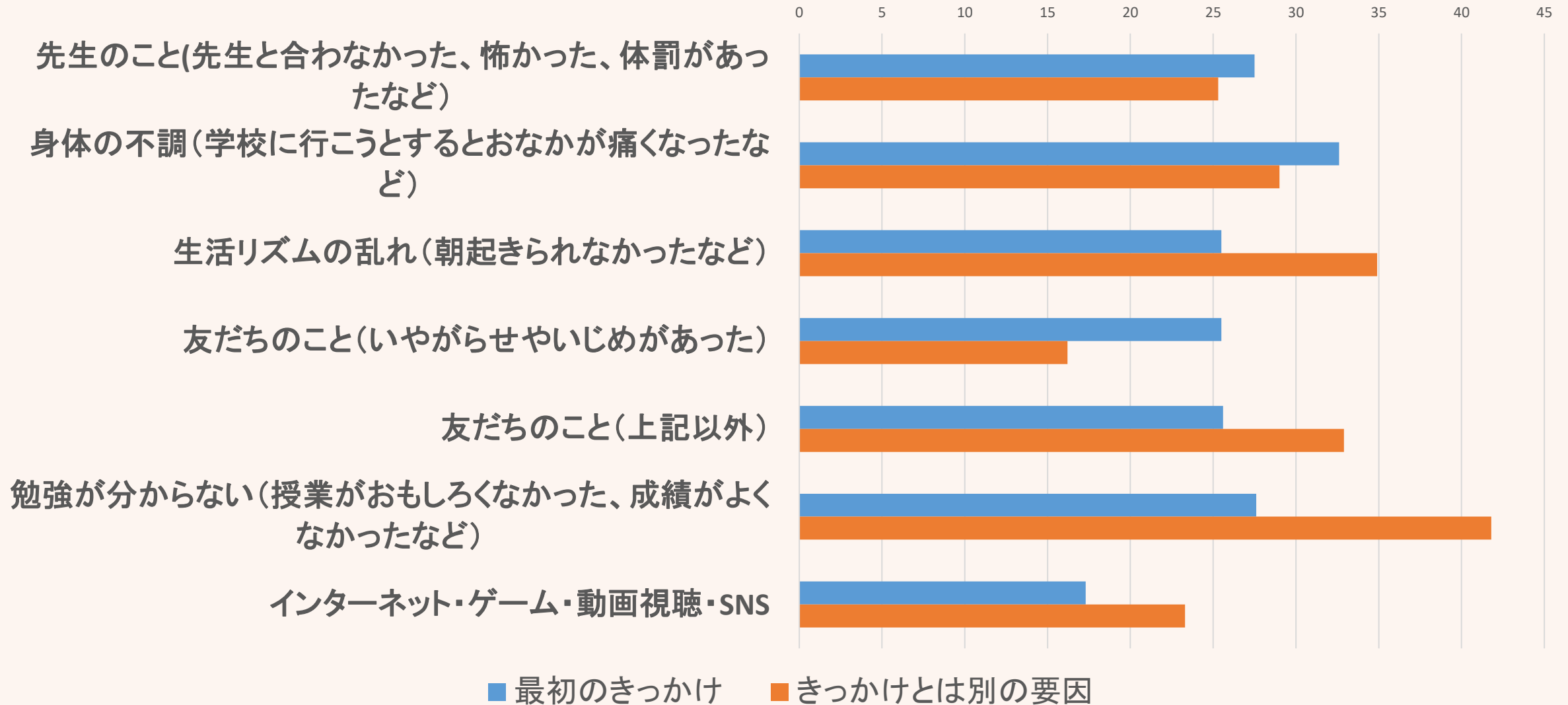
# 本人が回答した「最初に行きづらいつと感じはじめたきっかけ」(中学校)



# 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由(小学校)



# 最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由(中学校)





(5) 不登校中の気持ち

# 学校を休んでいる間の気持ち（安心や不安について）

※「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した割合

（小学校）

ほっとした・楽な気持ちだった（70%）

自由な時間が増えてうれしかった（66%）

勉強の遅れに対する不安があった（64%）

（中学校）

勉強の遅れに対する不安があった（74%）

ほっとした・楽な気持ちだった（69%）

自由な時間が増えてうれしかった（69%）

進路・進学に対する不安があった（69%）

# 学校を休んでいる間の気持ちについて、自分のことが嫌で仕方なかったと回答した割合

(小学校)

あてはまる、少し当てはまる(44%)

あてはまらない、あまりあてはまらない(52%)

(中学校)

あてはまる、少し当てはまる(58%)

あてはまらない、あまりあてはまらない(38%)

# 学校を休んでいる間の気持ち（**自分がどう思われているか**）について

（小学校）

学校の同級生などがどう思っているか不安だった（64%）

学校の先生たちがどう思っているか不安だった（50%）

家族がどう思っているか不安だった（40%）

近所の人がどう思っているか不安だった（25%）

（中学校）

学校の同級生などがどう思っているか不安だった（72%）

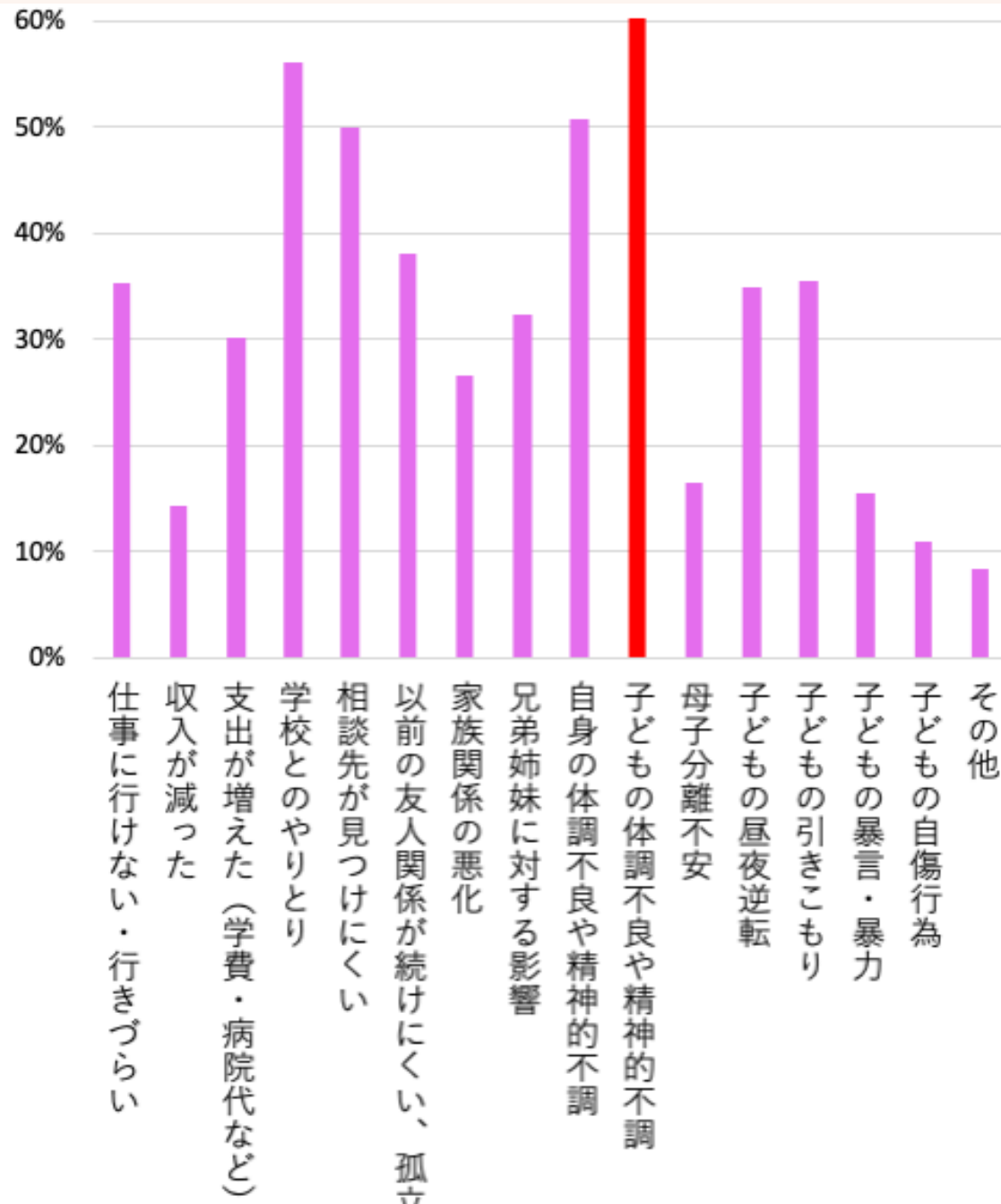
学校の先生たちがどう思っているか不安だった（56%）

家族がどう思っているか不安だった（47%）

近所の人がどう思っているか不安だった（28%）

(6) 保護者の気持ち (アンケートから)

## 保護者が困っていること (複数回答)



「不登校を考えるアンケート(保護者向け)」～先輩ママたちが運営する不登校道案内サイト「未来地図」を通じたアンケート～

実施時期:2021年2月～3月

実施方法:インターネット

回答総数:1064(子ども1人につき1件)

[https://miraitizu.com/wp-content/uploads/survey\\_2021\\_att.pdf](https://miraitizu.com/wp-content/uploads/survey_2021_att.pdf)

## 学校に対して保護者が望むこと

	全体 (1064人)	小学生 (583人)	中学生 (396人)	高校生 他 (85人)
欠席連絡の方法	49.8%	54.0%	44.4%	45.9%
家庭訪問や面談等について、無理のない提案	33.2%	35.0%	32.6%	23.5%
子どもの意思を尊重した対応	60.9%	65.0%	58.3%	44.7%
いじめなどのトラブル対応	17.1%	16.1%	20.2%	9.4%
繊細な子や、特性のある子への理解と配慮	65.1%	73.1%	59.6%	36.5%
クラス分けに関する相談	25.0%	25.2%	26.5%	16.5%
学校内に安心できる居場所の確保	49.2%	56.3%	44.2%	24.7%
ダメージを受けてる子への理解と配慮	53.7%	55.8%	53.0%	42.4%
学校内の不登校親の会	45.3%	47.9%	44.4%	31.8%
相談先の情報提供(公的機関や親の会など)	48.1%	49.1%	49.0%	37.6%
多様な進学先の情報提供	46.1%	43.4%	52.3%	36.5%
休みやすい雰囲気や、安心できる環境づくり	49.2%	54.2%	45.7%	30.6%
オンライン授業への対応	50.8%	53.7%	49.8%	35.3%
その他	9.2%	10.5%	7.3%	9.4%

※無回答：13件

「不登校を考えるアンケート(保護者向け)」～先輩ママたちが運営する不登校道案内サイト「未来地図」を通じたアンケート～

実施時期：2021年2月～3月

実施方法：インターネット

回答総数：1064(子ども1人につき1件)

[https://miraitizu.com/wp-content/uploads/survey\\_2021\\_att.pdf](https://miraitizu.com/wp-content/uploads/survey_2021_att.pdf)

## 学校に対して保護者が望むこと(自由記述の一部)

- どのように対応して欲しいか問われても、知識も経験もないのでどう配慮をお願いしたらいいか分からない。窓口となり、過去どんな対応をしたことがあるかなど、一緒に考える体制があれば相談しやすかったと思う。
- 教室以外の安心できる場所の提供。担任の先生にも負担をかけないよう専用の方がいて欲しい。
- 学校に登校しなくても学ぶ機会を作って欲しい。



## 今まで受けた支援や配慮で保護者が嬉しいと感じたこと(自由記述の一部)

- ・学校への欠席連絡が辛くなってきた時に、先生から出席の日の連絡で大丈夫ですよとおっしゃって頂き、心が軽くなりました。
- ・進路を考えるにあたり、一つ一つ丁寧に子供の意思確認をして、一緒に寄り添って考えてくれたので、親も焦らずしっかり向き合う事ができました。
- ・クラスの担任が親の意向に沿って、子どもに接触しないでくれた。子どもがまた学校に行きたくなった時は、仲の良い子がいて少人数の支援クラスに行けるよう手配してくださって、今は安心してほぼ毎日通学するようになっている。

## 保護者によるその他の自由記述の一部

- どんな熱心な支援でも、学校が苦手な子の理解がかけていたら残念な支援になってしまう。まずは子どもの気持ちの状態を知る事が大事だと感じるが、普段学校に元気に来ている子ども達を相手している先生にとってはなかなか理解しがたい現実もあると思います、残念ながら。
- 行きたくても学校へいけない現実をもっとわかって欲しい。学校へ行くのは当たり前という日本の風潮が消えなければ子供の学校に行っていない事からくる罪悪感消えなくて毎晩の様に泣いている子供をみるのが辛い。

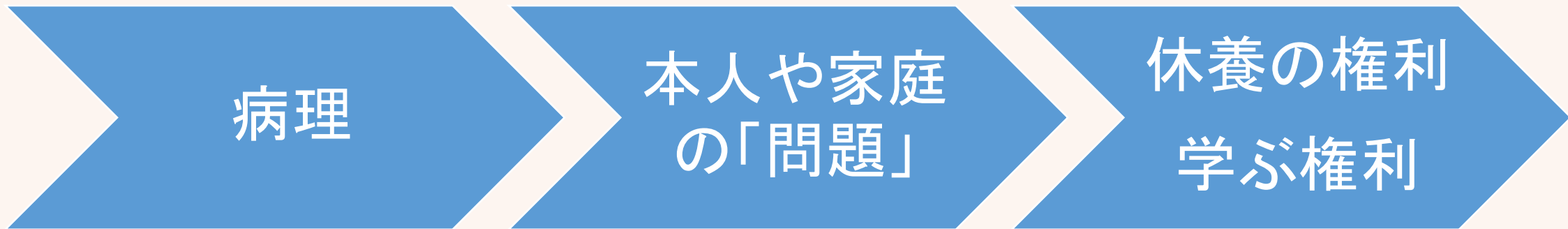
- 子供に「学校が全てでは無いよ」と言いつつも、不登校でいいんだよ！と100%思えてない自分がいます。きっと子供には伝わっているんだろうな～って思います。子供の気持ちを理解出来ないのがしんどいです。
- 不登校になった瞬間、世界が一変します。衝撃に耐えられず、自分から情報を取りに行くこともできない人も多いはず。一番最初に学校から、どんな支援があるか、親の会や居場所の情報など、不登校親子にすぐアクセスできる情報をストックしてほしい。何より、先生たちにもっと現状を知ってほしいです。一番詳しくなってほしい。
- 不登校が問題、解決すべきもの、という価値観がしんどいです。不登校でも大丈夫！なんとかなる、なんとでもなるから、と支援してくれる人が増えたら嬉しいです。

(8) 学ぶ権利と休養する権利

# 「教育機会確保法」5つの基本理念

1. 全ての児童生徒が安心して教育を受けられる学校の環境の確保
2. 不登校児童生徒の多様な学習活動を踏まえた個々の状況に応じた支援
3. 不登校児童生徒が安心して教育を受けられる学校の環境の整備
4. 年齢、国籍にかかわらず能力に応じた教育機会の確保
5. 国、地方公共団体、民間団体等との連携

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」(2017年施行)、一般に「教育機会確保法」と呼ばれる。



不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校というだけで問題行動であると受け取られないよう配慮し、児童生徒の最善の利益を最優先に支援を行うことが重要である。(教育機会確保法の基本方針)

# 学ぶ権利と、休養する権利

- 大人が具合が悪くなれば仕事を休むのと同じ。子どもも具合が悪ければ、お休みして自分を整える権利がある。
- 同時に、長期欠席が不利益にならないよう、学校以外の場の学びが継続できる選択肢が必要。学びたい子は学べるように、一旦勉強から離れていたい子は十分休養できるように。
- 不登校から動き出そうとした際にも、子どもたちの育ちを支えるあたたかなまなざしと、長い目で見守る適切な支援が大切。

不登校に関して大事なことは、「再登校させるかどうか」ということを、あまり最初から問題にすべきではないということです。不登校をめぐる議論がずっと錯綜しているのは、「再登校是か非か」という議論に話が終始しがちだからです。この「再登校是か非か」という問題は、必ずイデオロギー論争になってしまいます。学校が好きな大人は学校に行かせようとするし、学校嫌いの大人は、学校はダメだから行かせるなというし、そういう部分で非常に不毛な争いに陥ってしまうわけです。

しかし、それは大人の事情でしかありません。そういう事情をそのまま子どもに押しつけることで、二重に間違いを犯してしまうことになるのです。

ここでしっかりと考えていただきたいのは、「再登校是か非か」が問題ではないということです。再登校させるべきかどうかは問題ではない。それでは何が問題か。「どうすれば、子どもが元気になるか」こそが問題なのです。



「元気」ということを考えるなら、とりあえず休養が必要ということ  
はわかりますね。いろいろな無理を重ねてくたびれきって不登校  
になっている子が多いわけですから、とにかくいったん休ませる。  
いったん休ませたら次にどうするか。

休ませ続ける方がいい子もいれば、転校するのが向いている子もいる。あるいは通信制や定時制、フリースクールやホームスクールといった、別の選択肢で元気になる子もいる。集団生活がどうしても難しければ、高等学校卒業程度認定試験を受けて上の学校をめざすという方法もある。ここで、忘れてはならないもう一つの選択肢が、もとの学校に再登校することで元気になる子もいる、という事実です。

(引用) 斎藤環, 2012, 『ひきこもりはなぜ「治る」のか? —精神分析的アプローチ』ちくま文庫, 36頁

その子が、その子らしく生きていくことが目標です

## 不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）令和元年10月

### 支援の視点

不登校児童生徒への支援は、「**学校に登校する**」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。また、児童生徒によっては、**不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある**一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm))





不登校の  
理解と支援のための  
ハンドブック

伊藤美奈子(編著)  
多様な  
学びの場を  
保障する  
ために

ミナルゾク書房

岩波ブックレット No. 1065

# いじめ加害者に どう対応するか

処罰と被害者優先のケア

齋藤 環良  
内田

被害者が居続けられない  
学校であってはならない

その対応は被害者に寄り添うものになっているのか？

わかる、使えるくはじめの1冊！  
岩波ブックレット

定価(本体520円+税)



不登校に  
行きたくない君へ

マンガで  
読む

不登校 いじめを  
経験した先輩たちが語る  
生き方のヒント

棚園正一

ポプラ社



人生に「正解」  
なんてない。

私たちは、こうして  
「自分の生き方」を見つけた。

宮本亞門  
サヘル・ローズ  
山田ルイ53世  
田口トモロヲ  
内田樹  
町田そのこ

ほか全16名

ポプラ社



Highly Sensitive Child

HSCの

子育てハッピー  
アドバイス

HSC=ひといちばい敏感な子

子育てカウンセラー  
心療内科医

明橋大二

イラスト 太田知子

よく泣く すぐにビックリする 刺激に敏感 変化が苦手



敏感さは、すてきな自分らしさ

17年次出版